

松ぼっくりのツリーで「メリークリスマス」

ジングルベルの音楽が街に流れる12月15日に、酒田市の西荒瀬保育園で「松ぼっくり」を使った手作りクリスマスツリーの制作を行いました。

保育園児の年長組38名が「ドイツウヒの松ぼっくり」を木に見立てて、モールやビーズを接着剤で貼り付けて手作りのクリスマスツリーを作りました。

西荒瀬保育園では野外体験教育の一環として森林環境教育に取り組んでおり、平成20年度は「みどりの保育園」推進事業として多彩な活動を実施しています。

今回のクリスマスツリーの制作も自然とのふれあい体験事業として、森の恵みを活用した木工細工により保育園児達の独創性を高めようと計画したものです。

輪切りにした円盤の中心に穴を開けて棒を立て、その上に穴を開けた松ぼっくりを差し込んで固定し、木工ボンドで金銀のモールや色々な色彩のビーズを飾りたてていきます。

手際よく制作する子や時間を掛けて慎重に制作する子など、保育園児達の作り方には個性が良く表れていました。

指導にあたったセンターの職員も、園児達の要望などを聞いて親切に教えていましたが、難しい質問や注文を出されると四苦八苦しながらの作業となり、苦笑いしていました。

保母さんたちの話では、園児達がこんなに長時間の間飽きずに集中して作業するのは滅多にないことだと驚いていました。

約1時間後、全員が一生懸命に頑張ったのでクリスマスツリーが完成しました。それぞれ自分の名前を円盤に貼り付けて教室内に展示しましたが、園児達もキラキラ光るクリスマスツリーの林に見とれていました。

指導したセンター職員達も園児達のクリスマスツリーの個性豊かな出来映えに、満足そうな笑顔で応えていました。

クリスマスツリー制作の終了後には、保育園児達から当センターの職員に対し、ポスター大の大きな感謝の手紙が送られました。これには、保育園児の似顔絵と一年間の森林環境教育の中で学んだ中から、楽しかったことに対するお礼の言葉が書かれていました。

センター職員達も、園児達の感謝の言葉に年間を通した森林環境教育で子供達の心も成長したことを感じるとともに、今後も実施プログラム等の充実を図るなど更に楽しめる森林環境教育の推進に向けて取り組む決意を新たにしていました。



みどりの感謝状



みどりのおじさんたち

いちねんかんいろいろおしえてくれて

ありがとう。